

## (2) 対象学級の生徒の実態調査と考察

本研究では、生徒の二次欲求を知るためにDATを実施した。DATの結果を見ると「適応傾向」の危険性が「やや大」あるいは「危険性大」に項目が一つでも該当している生徒は、図1に表示したとおり、男子で17名中5名、女子では16名中8名であった。

その他の「適応傾向」の危険性がどの項目においても小さい生徒については、それほど危険とする問題点は見いだせない。しかし、DATで生徒が選んだ質問肢のひとつひとつに目を当てると、そこから問題点や生徒の不満を読み取ることができる。それが図2である。質問肢ごとに、どのくらい実際は、不満を感じているのかその度合いがわかった。ここに例としてあげた生徒の場合は、不満の程度を10段階で示した場合、不満の8の度合いが二つ、7の度合いが一つ、5の度合いが二つ、4の度合い3の度合いがそれぞれ一つという結果であった。

このように、「適応傾向」の危険性が「小」とはいいながら、質問肢からは生徒の不満の様子をとらえることができた。

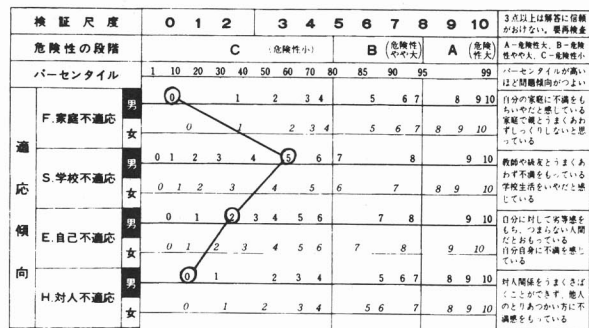
この生徒のような「劣等感」「学校生活への不満」などにかかわる欲求や、その他、「対人関係がうまくいっていない」ことへの不満などが多くの生徒の中にみられた。

図1（危険性やや大、危険性大に該当する生徒）

DATの結果から「危険性やや大」「危険性大」に該当する項目の略語を表示する。  
 家庭不適応—家 学校不適応—学 自己不適応—自 対人不適応—対

男子		女子	
出席番号	危険性やや大 危険性大	出席番号	危険性やや大 危険性大
9	家 対	1	家 自
10	対	2	自 対
12	自	8	学
16	学 対	9	家
17	家 自	10	家 学
		12	家
		14	学 対
		15	家

図2（危険性小の生徒の例）



### (質問肢)

- 14. わたしは、授業中にたいくつしていることが多い。  
・どんなことに（どう）かたい。  
・どうすれば不満がなくなりますか。（もしあれば）  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
- 26. わたしは、学校で注意されることが多い。  
・どんなとき（なぜ）か。  
・どんなこと（もしあれば）か。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
- 30. わたしは、進学してもっと勉強したいとは思わない。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
- 34. わたしは、どうも勉強する気になれない。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
- 38. わたしは、学校を休みたくなる。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
- 3. わたしは、まったくだめな人間だと思う。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
- 35. わたしは、友達とくらべて欠点ばかり多い人間である。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

## 3 エンカウンターの手法を用いた実践

### (1) 場面と目的

ア 授業の導入に位置づけ、ウォーミングアップとしての効果をねらう。

イ 学級活動、短学活の時間に、人間関係を醸成し、学校生活への意欲の高まりをねらう。

### アのすすめ方

- ① 肩たたき  
○ 二人一組になって下さい。首筋から背中までリズムカルにたたきましょう。お互いに2、3分です。
- ② 見つめ合い  
○ 手を取り向かい合って座り、目を見つめましょう。相手が目を反らしたら手で合図します。相手の迫力に負けるな。
- ③ 牛乳ビンの利用方法について考えよう  
○ 5、6人のグループになって下さい。  
○ 今日は、頭を柔らかくするためのトレーニングをします。頭にひらめいたことを班ごと